発刊に寄せて

沖縄県高等学校体育連盟
会 長　**渡嘉敷　通　之**

沖縄県高等学校体育連盟は、今年、創立60年の節目を迎え、記念事業の一環として「沖縄県高等学校体育連盟創立60周年記念誌」発刊の運びとなりましたことを心から喜ばしく思います。

本連盟は、終戦後の混沌とした状況の中で、スポーツを通して青少年に夢と希望と感動を育むことを目的に、昭和28年５月に設立されました。

設立当初は、施設設備や運動用具等もままならない時期で、各先生方のスポーツに賭ける情熱だけで部活指導や大会運営等がなされる中、加盟校19校、11競技専門部からのスタートでありました。

歴代会長、理事長をはじめ各競技専門部長、専門委員長並びに多くの先人達のご苦労は筆舌に尽くし難いものがあったと察しいたします。諸先輩方の並々ならぬご努力により、現在では、加盟校73校、30競技専門部（準専門部１を含む)、生徒数約５万人を擁するスポーツ団体へと成長しております。その間、復帰15周年を記念して開催された昭和62年の国民体育大会「海邦国体」は、高校生を中心とする少年の部の活躍もあり、県民の悲願であった総合優勝、天皇杯、皇后杯を獲得するなど、県民に大きな感動と喜びを与えてくれました。この大会を契機に県民のスポーツへの関心は一層高まりを見せるようになりました。このような中、本県高校生の競技力は目覚ましく向上し、その後の九州大会や全国大会等において、多くの優秀な成績を収めるとともに、日本代表選手に選抜されるなど、すばらしい実績を残しています。これも偏に、各競技専門部をはじめ、生徒の可能性を信じ、生徒と共に汗を流す教育現場において、顧問の先生方が常に努力を積み重ねてきた賜であり、心から敬意を表します。

また、平成４年開催の復帰20周年記念全九州高等学校体育大会をはじめ、平成14年の全国高等学校体育連盟研究発表大会など、素晴らしい実績と成果を収めました。

さらに、学校スポーツ関係者の悲願であった全国高等学校総合体育大会「美ら島沖縄総体2010」が、離島をはじめ、本県広域にわたる27市町村と鹿児島県の協力を得て、全国一巡最後の年となる平成22年度に「青天届く君の風　みなぎる闘志が　夏に輝く」のスローガンのもと、心温まる、そして、心に残る大会として成功裏に終了できたことは、記憶に新しいところであります。これも偏に、会場地市町村、鹿児島県霧島市をはじめ、各競技専門部、各競技団体のご協力と「一人一役活動」に携わったすべての高校生が「イチャリバ兄弟」の精神で、心温まるおもてなしを実践できたお陰であり、心から感謝と敬意を表します。

そして、2020年オリンピックの東京開催が決定したことは、青少年に夢と希望を与えてくれるとともに、是非、本県からオリンピック選手が輩出できることを期待いたします。

21世紀は、少子高齢化、情報化、価値観の多様化等様々な課題が山積する中、本連盟においても、望ましい運動部活動の在り方や体罰問題等諸々な課題について、関係団体等と連携を図りながら課題解決に取り組んでいかなければなりません。そして、本県高校生が全国の舞台で力強く逞しく活躍し、県民に明るい希望と自信を与えることのできるよう取り組んでいく所存であります。

終わりに、本記念誌発刊にあたり、原稿を戴きました関係各位及びご苦労をいただいた編集委員の先生方に衷心より感謝申し上げ、発刊の言葉と致します。

沖縄県高等学校体育連盟
創立60周年をお祝いして

公益財団法人　全国高等学校体育連盟
会 長　小 野　　力

沖縄県高等学校体育連盟が創立60周年を迎えられましたことを心からお祝いを申し上げます。

今日まで、長年にわたり貴連盟の運営にご尽力いただきました多くの関係者の皆様の言葉では言い尽くせない数々の御苦労や御努力に対しまして、心から敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

貴連盟は、昭和28年５月の創立以来、体育・スポーツ活動を通して、高校生に夢と希望を与え続け、豊かな人間性を培い、高校生の体力及び競技力の向上に努めてこられました。

（公財）全国高等学校体育連盟にとりましても、全国の高校生のより一層の体力及び競技力の向上を願うところでありますが、その中にあって、沖縄県高等学校体育連盟が創立60年の歴史を刻まれたことは、大変意義深いことであります。

また、貴連盟におかれましては、各競技専門部の創設にご尽力され、2010年（平成22年）には『美ら島沖縄総体2010』の実現にご尽力いただき、沖縄県での全国高等学校総合体育大会の開催によって、全都道府県での開催が一巡したところです。大会開催にあたりましては、並々ならぬ多くの困難や労苦があったことと推察いたしますが、時代に適応した高校生スポーツアスリートにふさわしい素晴らしい大会として一巡目の幕を閉じられたことに、改めまして厚く御礼を申し上げます。

高校期は、生涯スポーツの基礎を形成し、その後の運動習慣の定着に大きな影響を及ぼすことなどを考えますと、高校期の運動部活動の果たす役割は、極めて大きいと考えております。そうした中、2020年に東京オリンピックの開催が決まり、国を挙げてスポーツ活動への関心や期待が高まる中、今後、高体連への期待も高まることが予想されます。

貴連盟におかれましても、これからスポーツの国際化が進む中で、さまざまな課題に取り組まれ、高校生のスポーツへの関心を高めていただき、スポーツに親しむことによって競技力の向上が図られるよう、一層のご尽力をお願い申し上げます。

結びに、輝かしい歴史と伝統を刻まれてこられました沖縄県高等学校体育連盟のますますの御発展と御活躍をお祈り申し上げまして祝辞といたします。誠におめでとうございました。

式　　辞

沖縄県高等学校体育連盟
会 長　**渡嘉敷　通　之**

本日は、沖縄県知事仲井眞弘多様、沖縄県教育委員会教育長諸見里明様はじめ、関係諸団体及び多くの関係者のご臨席を賜り、沖縄県高等学校体育連盟創立60周年記念式典が、かくも盛大に挙行できますことは、本連盟にとりましてこのうえない喜びであり、ご臨席の皆様方に衷心より御礼を申し上げます。

さて、本連盟は10年前に、創立50周年を記念して盛大な式典、祝賀会を催しましたが、あれから早10年の歳月が過ぎ、ここに、60周年という記念すべき節目を迎え、会員一同感慨を新たにするとともに、一段と身の引き締まる思いであります。

顧みますと、昭和20年代の沖縄は、激戦による荒廃と困窮の時代でありました。こうした社会情勢の中、本連盟は、スポーツを通して青少年に明日への夢と希望と感動を育むことを目的に、昭和28年５月、加盟校19校、11競技専門部からのスタートで設立されました。

設立当初は、指導者不足はもとより、施設設備や運動用具等もままならない時期で、各先生方の教育愛とスポーツに賭ける情熱だけで部活指導や大会運営等がなされ、以後、全国大会への道が開けたものの、派遣種目の制限、財政上の問題等々幾多の困難な問題を諸先輩方の並々ならぬご努力で克服し、今日の基盤を築いたことに対し、心から敬意を表するものであります。

以来、60年を経て、現在では、加盟校73校、29専門部、１準専門部、生徒数約５万人を擁するスポーツ団体へと成長発展してまいりました。その間、復帰15周年を記念して開催された「海邦国体」での総合優勝をはじめ、平成４年開催の復帰20周年記念全九州高等学校体育大会や平成14年の全国高等学校体育連盟研究発表大会など、素晴らしい実績と成果を収めました。

さらに、全国一巡最後となる「美ら島沖縄総体2010」が、「青天届く君の風　みなぎる闘志が夏に輝く」のスローガンのもと、心温まる、そして心に残る大会として成功裏に終了できたことは、記憶に新しいところであります。これも偏に、会場地市町村をはじめ、各競技専門部、各競技団体のご協力と「一人一役活動」に携わったすべての高校生が「イチャリバ兄弟」の精神で、心温まるおもてなしを実践できたお陰であり、心から感謝と敬意を表します。

お陰をもちまして、幾多の経験を通す中、本県高校生の競技力は目覚ましく向上し、現在では、九州大会や全国大会等々において、多くの優秀な成績を収めるとともに、日本代表選手に選抜されるなど、すばらしい実績を残しています。これも偏に、各競技専門部をはじめ、生徒の可能性を信じ、生徒と共に汗を流す教育現場において、顧問の先生方が常に努力を積み重ねてきた賜であり、心から敬意を表すとともに、感謝を申し上げます。

そして、2020年には東京オリンピックが開催されます。是非、多数の競技において本県からオリンピック選手が輩出できることを期待いたします。

21 世紀は、少子高齢化、価値観の多様化等様々な課題が山積しております。そのような中、本連盟においても、望ましい運動部活動の在り方や体罰問題等々、諸々な課題解決に取り組み、本県高校生が全国の舞台で活躍し、県民に夢と希望と感動を与えるなど、21世紀を担う逞しい青少年の育成に全力を尽くす所存であります。

終わりに、ご来賓並びに関係各位のこれまで以上のご指導・ご支援をお願い申し上げますとともに、創立60周年事業にご協力を賜りました関係者の皆様に心より御礼を申し上げ、式辞といたします。

祝　　辞

沖縄県知事
仲井眞　弘　多

沖縄県高等学校体育連盟が、創立60周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

貴連盟は、昭和28年の創立以来、高等学校教育の一環として、本県高校生の健全育成と高等学校体育・スポーツの発展に大きく貢献してこられました。

振り返りますと、平成22年度に開催されました、全国高等学校総合体育大会「美ら島沖縄総体2010」では、本県史上最多の上位入賞を果たすとともに、運営面においても県内すべての高校生が、大会運営に関わり、全国の高校生を心温かく迎え、もてなしたことは記憶に新しいところです。

全国高等学校総合体育大会や国民体育大会における次代を担う高校生の活躍は、県民に大きな夢と誇りを与え、これまで本県の競技力を支える中心的な役割を果たしてきました。これまでの、関係各位の努力の賜と深く敬意を表します。

スポーツは、心身の健全な発達に資するとともに、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に寄与する重要な役割を果たしております。また、運動部活動を通して培った豊かな人間性、ルールを遵守する精神、忍耐力はその後の人生を歩む上でとても重要なものであり、健全育成はもちろん社会を生き抜くための「生きる力」を育て、大きな力となっています。

現在、沖縄県におきましては、「健康長寿復活」につながる「生涯スポーツ社会の実現」を図るため、「子どもの体力・運動能力の向上」を施策に掲げるとともに、「多様な能力を発揮し、未来に拓くスポーツアイランド」を目指して学校体育の場でもジュニア発掘育成制度等に努めているところです。

貴連盟は、このような県の施策を推進する上で重要な役割を果たしており、今後も青少年の健全育成・競技力の向上に邁進していただきますよう期待申し上げます。

終わりに、これまでに連盟の組織確立に尽力されました関係各位に深く敬意を表しますとともに、沖縄県高等学校体育連盟のなお一層のご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

平成25年12月吉日

祝　　辞

沖縄県教育委員会
教育長　**諸見里　　明**

沖縄県高等学校体育連盟が、創立60周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

この記念誌が、貴連盟の60年にわたる輝かしい歴史を後世に伝える貴重な記録としてここに発刊される事は誠に意義深く、永く語り継がれる足跡として多くの方々に活用されるものと思います。

沖縄県高等学校体育連盟は、昭和28年５月30日、当時の琉球政府文教局に19校の高等学校の校長や体育主任が集まり「力と技と明朗な精神」をテーマに設立されました。

以降、本県高校生の健全育成と競技力の向上、そして学校体育・スポーツの普及・発展に大きく貢献されてこられました。

平成16年には50周年の記念誌が発刊されておりますが、その後の10年間を振りかえりますと、一番印象に残っておりますのは、全国で最後に本県で開催されました、平成22年度全国高等学校総合体育大会「美ら島沖縄総体 2010」であります。競技に出場する選手だけでなく、県内全ての高校生が一人一役運動に参加し、全国の仲間達を心温かいもてなしで迎え、大会運営に頑張ってくれました。

また、競技力においても、優勝や上位入賞者数が過去最多となるなど、素晴らしい活躍がありました。さらに、会場地となりました市町村からの各競技団体並びに関係者への絶大な御支援、御協力もあり、大会参加者及び県外に感動を与え、大会が成功裏に終了できましたことを改めて心から感謝申し上げます。

今年、北部九州で開催されました「2013 未来をつなぐ 北部九州総体」においても、ハンドボール、ウエイトリフティング、カヌーをはじめ、レスリング、弓道及びなぎなたで全国制覇や上位入賞を成し遂げるなど、その堂々たる活躍ぶりは県民をはじめ多くの青少年に自信と夢を与えてくれました。

一方、学校教育の一環である部活動が、一部の指導者において勝利至上主義に陥り、指導が行われてきたことに対して社会的に大きな反響があります。県教育委員会としましては、今後とも部活動の活性化と適正化に努めるとともに、県の施策であります「たくましい心と体を育む教育の推進」に取り組み、子ども達の夢と希望を育てる教育活動を一層推進してまいります。

今後も貴連盟がますます組織を強化し、高等学校における生涯教育・スポーツの充実発展に寄与することを切望します。

結びに、沖縄県高等学校体育連盟の限りない御発展を心から祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。

平成25年12月11日

祝　　辞

沖縄県教育庁保健体育課
課長　長濱雅仁

沖縄県高等学校体育連盟が、創立60周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。併せて記念誌が発刊されますことは、輝かしい60年の歴史と諸先輩の偉業を綴る貴重な記録として、誠に意義深く期待するものがあります。

さて平成16年度の50周年記念事業からの10年間は、少子高齢社会、情報化、国際化の進展等、急激な社会の変化が続く中、新学習指導要領において、学校体育・スポーツの現場を取り巻く様々な環境に対しても大きな変革を求められています。

平成22年度に開催された、「美ら島　沖縄総体2010」では、皇太子殿下のご臨席を賜り、全国から多くの高校生、関係者が一堂に会して総合開会式を始め、数多くの競技における選手の活躍、また一人一役運動における本県高校生のひたむきな姿が鮮明に浮かんできます。

これまで高体連は、インターハイへの取組を契機に、九州・全国大会等で多くの優勝や上位入賞を果たしてまいりました。今年、北部九州で開催されました「2013未来をつなぐ 北部九州総体」においても、ハンドボール、ウエイトリフティング、カヌーをはじめ、レスリング、弓道及びなぎなたで全国制覇や上位入賞を成し遂げるなど、その堂々たる活躍ぶりは県民をはじめ多くの青少年に自信と夢を与えてくれました。

競技スポーツを下支えしている、学校教育の一環としての運動部活動の意義は、スポーツに親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであります。又、三年間の部活動を通して規則正しい生活を送ることは、自らを知り、より自らを磨くことでもあり、体力の向上や有為な人間形成にも繋がる極めて効果的な活動であると認識しております。県教育委員会としましてこれからの部活動の在り方については過度の勝利主義に陥ることなく、人間教育の視点を踏まえ、生徒のバランスのとれた生活や成長に配慮するとともに、外部指導者もとり込んだ適正な部活動の一層の活性化に取り組んでいく所存であります。

結びに、貴連盟の目指す「力と技と明朗な精神」の目標に邁進され、沖縄県高等学校体育連盟の限りない御発展を心から祈念いたしましてお祝いのことばといたします。

平成25年12月11日

祝　　辞

公益財団法人　沖縄県体育協会
会 長　**仲井眞　弘　多**

沖縄県高等学校体育連盟が創立60周年の輝かしい節目を迎えられたことに対し、心からお祝いを申し上げます。

貴連盟は、昭和28年終戦後の混沌とした世相の中、連盟が設立され、以来、学校教育の一環として本県高校生の体育・スポーツの普及・発展と競技力の向上を図るとともに、スポーツ精神を涵養し心身とも健全な生徒を育成することに情熱を傾けて来られました。改めて、ご尽力を賜った歴代会長はじめ、理事長、関係者の皆様に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

連盟設立の翌、昭和29年には全国高等学校体育連盟に加盟し、全国との交流をいち早く進め、指導者の育成や専門部の育成等、組織の強化を図り、この間優秀な指導者及び選手を幾多も輩出し、今日の隆盛を見るに到りました。

平成 22 年度には、全国高等学校総合体育大会の一巡目最後の単独県開催として「美ら島沖縄総体2010」が、県内27市町村77競技会場に於いて、選手・監督・役員含む総勢9,906名が県内外から参加し盛大に開催されました。

大会期間中に台風の襲来等もありましたが、本県高校生の一人一役運動や専門部、競技団体・市町村関係団体等が連携を密にし大成功を納めました。競技結果も団体・個人合わせて優勝12種目、準優勝12種目、３位12種目その他入賞含めて過去最高の成績を挙げることができ、本県高校生のスポーツ振興と競技力向上に大きく寄与したとともに大会に参画した高校生の達成感・成就感は多大な教育的効果があったものと確信しております。

本県高体連の歴史に輝かしい足跡を残していただきましたことに対し関係者の皆様に敬意を表するものであります。

創立60周年の節目の本年は、全国高校総体における興南高等学校ハンドボール男子の４年ぶりの全国制覇、豊見城高等学校ウエイトリフティング部の５年ぶりの団体優勝、沖縄水産高等学校のカヌー競技カナディアンペア２連覇、カナディアンフォア優勝を始め、なぎなた競技準優勝、レスリングやボクシングなど多くの種目で入賞を果たしました。

本県高校生の活躍は、県民に大きな喜びと感動を与え、誠に頼もしい限りであります。これも偏に役員はじめ指導者の皆様の体育・スポーツの振興に対する情熱と、一致団結した協力体制の賜であります。

終わりに、関係者の皆様に対し、本県の体育・スポーツの発展に尚一層のご尽力をお願い申し上げるとともに、沖縄県高等学校体育連盟のますますのご隆盛ご発展を祈念申し上げまして、お祝いの言葉と致します。